

## 《本号の表紙絵》

### 銅人形（大小2体）

（中島医家資料館 所蔵）

銅人形あるいは銅人とは、鍼灸における経穴の位置を分かりやすく示し教育に用いる目的でつくられた人体模型のことであり、銅製のものだけでなく紙や木で作られたものもある。

王惟一が『銅人腧穴鍼灸図経』とともに北宋の1027（天聖5）年に2体製作したのがはじめといわれる。その後銅人形を用いた鍼灸の教育方法は1378（永和4）年に竹田昌慶によって日本にも伝えられ、江戸時代前期には何体もつくられ教育に使われたと考えられており、特に東京国立博物館所蔵のものが有名である。

今回紹介した銅人形は、岡山県瀬戸内市の中島医家資料館所蔵のものであり、体長は大が65cm小が43cm、材質は紙で張り子状（中空）になっており、経穴・経絡は墨書で示されている。

この銅人形は、備前岡山の在村医家である中島家代々の医師たちが鍼灸の学習に用いたと思われる、残念ながら来歴を直接的に示す文書などの手がかりはみつからないが、所蔵の状況から江戸時代後期のものと推測される。

（松村 紀明）